

2016年6月23日

インターナショナル・オリーブ・カウンシル

オリーブの国際機関、インターナショナル・オリーブ・カウンシル  
「Believe in Olive Oil」キャンペーンサイトに  
**香川県農業試験場小豆オリーブ研究所 主席研究員 柴田英明さんが登場**  
「日本では『エキストラバージン・オリーブオイル』はただの商品名でしかありません」

オリーブオイルとテーブルオリーブの国際協定により設立され、加盟国における国際規格の基準設定、および厳守に努める政府間機関、インターナショナル・オリーブ・カウンシル(International Olive Council/以下 IOC、本部:スペイン、マドリッド)は、「Believe in Olive Oil」キャンペーンサイトにて香川県農業試験場小豆オリーブ研究所 主席研究員 柴田英明さんのインタビュー記事を公開いたしました。

本インタビューでは、日本のオリーブ業界をけん引する柴田さんが、「世界的にも高い評価が定着してきている」と語る小豆島産オリーブオイルの歴史と、日本には存在しない国際基準に基づいた品質向上への取組を紹介しています。

本インタビューの中で柴田さんは次のように語っています。



**【インタビュー内容:一部抜粋】**

「日本の規格は CODEX や IOC 等の世界基準と違っており、『エキストラバージン・オリーブオイル』という区分がないためただの商品名でしかありません。IOC 等の国際規格で『エキストラバージン・オリーブオイル』と認められないオリーブオイルを、日本で『エキストラバージン・オリーブオイル』という呼称で販売していても法的に問題はありません」

「日本で制定されている日本食品規格には『食用オリーブ油』、『精製オリーブ油』の区分がありますが、まだ IOC 国際取引基準に準じた国内規格は制定されていません。現状において『エキストラバージン・オリーブオイル』という規格そのものがないということです」

**【柴田英明さんについて】**

香川県農業試験場小豆オリーブ研究所 主席研究員

国内唯一のオリーブ研究所の研究員 専門はオリーブの品種と栽培に関すること。小豆島におけるオリーブ品種の導入や採油機械の導入にも尽力。小豆島を海外産地と競争できるよう助言し、産業界を誘導。小豆島のカタドル(オリーブオイルテスター)制度導入の企画運営担当者。香川県オリーブ品評会園地部門、オイル部門のオーガナイザー、審査員。国際園芸学会編『Following Olive Footprints (Olea europaea L.)』(ISHS) 2012, Japan chapter 執筆。所属学会 国際園芸学会 香川大学卒

**■インターナショナル・オリーブ・カウンシル(International Olive Council/IOC)について**

IOCは、スペイン・マドリッドに本部をおく、オリーブオイルとテーブルオリーブの国際協定に基づく政府間機関です。1959年に、オリーブ栽培と生産の保護と開発のため国際連合によって、国際オリーブオイル協会(International Olive Oil Council/IOOC)として設立。その後、2006年にインターナショナル・オリーブ・カウンシル(IOC)に改名されました。IOCは、オリーブ業界における唯一の世界的な機関として、加盟国と協議をしながら、オリーブ業界発展のための政策作りを行っています。また、持続可能なオリーブ栽培の発展にも貢献しています。

(<http://www.internationaloliveoil.org/>)

**■「Believe in Olive Oil」キャンペーンについて**

IOC が、2015年7月から2016年12月末までの約1年半展開する、日本向けの啓発キャンペーンです。期間中、①オリーブオイルの健康効果 ②オリーブオイルの和食への応用 ③オリーブオイルの国際規格に関する理解を促進し、消費者が価格に見合った商品が選択できるよう、品質基準の重要性を訴求するための活動を展開いたします。キャンペーンタイトル「Believe in Olive Oil」には、オリーブオイルのちからを再認識してもらいたいという願いが込められています。今後の活動予定など、詳細はウェブサイト(<http://believe-oliveoil.jp/>)をご覧ください。